

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 74 2009年4月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



エコアツプ 充実の春

全体事業・みどりの保全区エコアツプ作戦

齊藤 孝

アズマネザサとの闘い 2008.10.13

皆さん、牛久自然観察の森第一駐車場に隣接する杉林、最近ご覧になりましたか？ 実は、場所によってはネイチャーセンターやバツタ原が見通せるくらいまで林床の手入れが進んでいます。

全体事業「みどりの保全区エコアツプ作戦」が始まったのは、今から2年ほど前、平成十九年六月。以来、地権者の方々のご好意のもと、プロジェクトの垣根を越え、会員全体で里山の保全に取り組んできました。前述の杉林の林床整備も、エコアツプ作戦としては二周目の作業として、今年の二月と三月に下草刈りや枝拾いを行いました。

実は、会として「みどりの保全区」に関わったのは、エコアツプ作戦が最初ではありません。特定非営利活動法人として茨城県から認証され、登記を終えて間もない、平成十六年十月二十四日に行われた「観察の森パートナーシップ事業・みどりの保全区整備事業」が最初の活動にあたります。（この年は「観察の森パートナーシップ事業」として、他に「里山聞き取り調査」や「ホタル調査」を行っていました）

当時は観察の森の指定管理者ではなく、その前のソフト事業の受託年のさらに前年。作業は雑木林応援隊メンバーを中心に、会員と一般市民、観察の森職員の合計三十二名で一日がかりで行われました。当時の記録によると、密生したアズマネザサの刈りとりとクズのツル取りに相当苦戦をしたとのこと。この活動は、翌年まで合計三回行われ、その後の牛久市との様々な協働事業の礎かつ布石となりました。（活動の様子は会報誌さとやま二十一号には作業中の写真も掲載されています。ホーム

ページ上の会報誌バックナンバーのページをご覧下さい)

事業主体が会事務局に移ってからの「みどりの保全区エコアップ作戦」でも、やはり密生したアズマネザサとの苦闘は続き、場所によっては一日の作業で数メートルしか前に進めないこともありました。しかし幸いな事に、事業開始からこれまでの約二年、一度も大きな事故や怪我に遭遇せず保全活動を継続することが出来ました。これは、参加メンバーの作業に対する安全意識の高さの反映でしょうか。刈り払い機やチェーンソー取扱者の安全教育講習会への参加はもちろん、作業前の準備体操や作業中の声の掛け合いは、回を重ねる毎に進歩しているように感じます。

新年度のエコアップ作戦は、これまでの第三日曜日午後の活動に加え、平日の第一金曜日午前にも活動日を設定。無理なく気持ちよく根気強く、身近な里山保全に尽力していきたいと思えます。春から何か新しい事を始めたいという方、ぜひ一緒に芽吹き森へと作業に出かけましょう。

四月の活動日/三日(金)午前九時～十一時半、十九日(日)午後一時～三時半。集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前・予約不要(荒天時中止 会ホームページに掲載)
持ち物 長靴・軍手・タオル・帽子(長袖、長ズボン)
刈り払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

お問い合わせ:うしく里山の会事務局
(電話)029-874-6600 牛久自然観察の森呼出/齋藤)

うしく里山の会には
個性豊かなプロジェクトが
たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか?
それでは紹介しましょう!

プロジェクト活動報告

巨木リサーチ事業報告
渡辺 泰

三年間の活動のまとめ

本事業は牛久市協働事業として平成十八年四月から三年計画で開始し、この三月で終了しましたので、活動のまとめを報告します。

目的は牛久市内の巨木等の現状を調べ、得られた情報を報告会・刊行物等を通して市民に提供することです。さらに参加者の健康や知識の増進も目標にしました。活動の進め方は代表・副代表(総務)の下に計測班、写真班、歴史班を設けて開始し、二年目から街路樹活動が加わり、巨木班(樹高・幹周・植生・写真G)と街路樹班に分けて取り組みました。参加者数は消長があり、当初の三十二名が三年目は二十四名になりました。

活動を円滑に進めるためYahoo!グループのサービスを活用し、日常的連絡・情報交換、調査木解説資料の提供を行うと共に、調査結果や登録画像ファイルを公開し、情報の共有を図りました。

最初に活動実績をみます。三年間の調査活動は四十一回、延べ参加者五百六十人、撮影活動参加者は延べ十四人で画像ファイルの登録数は千四百件。見学会等は十二回、懇親会は八回で参加者は夫々延べ百七十人と百十五人。成果報告等打合せ回数が十回、延べ二百三十人。年度末の報告会は三回で来場者は延べ二百二十人でした。また参加者による活動内容の広報の意味を込めて、広報「さとやま」への投稿に努めました。

次に活動成果のあらましは次の通りでした。調

3年間の巨木・古木・希少木別調査本数と調査樹種数

年度	巨木 ¹⁾		古木 ²⁾		希少木 ³⁾		計	
	本数	樹種数	本数	樹種数	本数	樹種数	本数	樹種数
H18	36	11	—	—	—	—	36	11
H19	14	9	46	24	8	7	68	40
H20	26	10	16	14	17	14	59	38
	76	30	62	38	25	21	163	89(70) ⁴⁾

注. 1) 地表1.3mの幹周3m以上の木、2) 幹周が3m未満の木、3) 牛久市内の希少木、4) 年度間の重複を除く種数。

巨木・古木・希少木の調査本数と調査樹種数

調査活動は表のように延べ百六十本の樹高・幹周・樹冠幅・樹勢を測り、周辺の植生を調べました。巨木は七十六本で、全体の四十七%。巨木の樹高・幹周について、牛久市の三大樹種をみますと、樹高の第一位は「市民木 No.18」桂町観音寺のイチョウ三

十八・〇m、第二位は「市民の木 No.27」島田町永沼氏のケヤキ三十一・二m、第三位は島田町高福寺のイチョウ三十一・七mでした。一方幹周の第一位は城中町水神塚の四分岐スタジイの七百五十cm、第二位は「市民の木 No.9」井ノ岡町淨妙寺の二分岐クスノキ五百十八cm、第三位は「市民の木 No.6」東端六町八幡神社のケヤキ四百四十九cmでした。



資料・写真展示報告会来場者 08.3.23

森」があり、林床には「牛久市版レッドデータブック」の絶滅危惧種や希少種がありました。社寺境内等の環境がこれらの保全に重要な役割を果たしていることが分かりました。成果の詳細は将来発刊が予定されている冊子で紹介すると共に、本事業の次期の活動に活かしたいと考えています。

街路樹活動では約五十種六千本の街路樹・公園樹を調べあげ、四百枚の樹名板取付けを市へ提案、四月で二十回になる「広報うしく・わが街の木」の連載と共に、昨年十二月に市委託事業となりました。次年度も継続が見込まれています。

当初計画の牛久城跡と牛久沼東斜面の樹叢の調査は未着手に終わりましたが、他日を期したいと思います。また調査木選定について、個人の

植生調査は九十箇所近く行い栽種を含め木本植物約百五十種、草本植物約二百五十種を確認、幾つかの社寺境内には、いわゆる「鎮守の

「チーム街路樹20」の発足にあたって街路樹とは、事典によると、市街地の道路に沿って植えられた樹木で、市街並木ともいう。因みに、日光の街道にある名物杉並木とか、参道の樹木は、街路樹とは言わずに地方並木と言われている。

「チーム街路樹20」の活動は、市内の街路に植えられている樹木を中心に、その背後にある景観も含めて対象とする。

今年度の主な活動は

一、街路樹に付けた樹名板を、子供から老若男女まで、散歩時の木の表札として目に留めてほしい。樹名板の維持管理で、二カ月に一回の巡回をして、劣化していないか、外れていないかの確認作業をする。

二、市内では、剪定のために見ることが難しい

街路樹

チーム街路樹20事業報告

増田 勝彦

敷地内の探索は必ずしも十分ではありませんでした。本調査から漏れた巨木等があると推察されます。今後とも追求を進めたいと考えております。

所期の目的をほぼ達成し、無事故で本事業を終えることができました。これは一重に協働事業として推進いただいた牛久市役所緑化推進課及び調査木の所有者・管理者等のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。さらに、NPO法人うしく里山の会関係者および献身的に活動いただいた本事業参加者の皆さんにお礼申し上げます。

街路樹の秋の紅葉を楽しもう。落ち葉拾いをしよう。いずれは、街路樹を保護しながら、美しい街路景観を作るための、市民活動に昇華させたい。三、三年目にあたる、市広報「広報うしく」への記事・写真の寄稿を通して、市民の樹木への興味と関心呼び起こし、同時に記事を楽しんでもらう。

市委託事業として

昨年十二月に、委託契約を牛久市と結んだ。契約名は「平成二十年度街路樹樹名板設置業務委託」である。平成二十年度とある通り、三月で街路樹四〇〇本の取付け並びに、その後の維持点検巡回をすべて完了、検収写真を提出した。

樹名板についても触れておきたい。樹名板は、一昨年八月に、佐倉国立歴史民族博物館を見学した際に、隣接する佐倉城址公園で見つけたものである。一目で、これだという感触を得て調べた結果、千葉県富津市にある森林組合の間伐材で作られたものとわかった。

採用した樹名板は、一〇〇〇円を下回った金額で、樹木と木の相性が良いせいか、周囲の環境と良く調和している。材質はヒノキ材であるが、取付穴五mmに黒の棕櫚縄と、一mmのビニールでコーティングされたステンレスワイヤーの二種で取り付けている。ワイヤーは高価なので、取付の際にも無駄がでないよう、両端を残さないようギリギリの採寸で押さえて、アルミスリーブで圧着留めしている。棕櫚縄のみに比べて、いたずら防止にも効果を発揮するものと期待している。

製作元の、森林組合を今年一月早々に見学したが、ヒノキ材のひび割れ防止薬につけたり、乾燥



千葉の森林組合伐採現場で

チーム四名で二グループを作り、朝九時に市ポラントピアセンター集合、午後三時半まで雨天を除いて連日行った。期間中は、樹木間を小走りする毎日であった。

メンバーのお楽しみ研修行事を計画する「街路探検チーム」の新年度第一回目の活動は、高尾の街路見学と多摩森林科学園の見学会を企画、四月に訪ねる。今後各市と協働しながら、ゆとりをもつて「あそび心で、ボランティア」を実践し、「不特定多数」の市民の心の琴線にふれる活動を目指したい。



雑木林応援隊事業報告

雨宮 廣之

したりの工程を経て、納期は約四十日間かかる。注文していたプレートの二月十七日に到着、取付作業は約六日間かかった。前もって、メンバー十九名の数日間の予定を出してもらい、一

二年度の活動日は三十八日、雨で中止となったのが三日で、実際に活動した日は三十五日となります。参加延べ人数は三百九十三名で、一般参加者は四十名でした。メンバーの活動参加は平均約十一名となります。但し、三月後半には、三日間の炭焼きを予定していますので、延べ人数は、プラス三十名ほどになると思います。

一般参加者は、十月のツルカゴ教室に二十二名、一月の炭焼き教室に十五名の参加がありました。残りの二名の方は見学者ですが、ツルカゴ・炭焼きとも参加者の楽しそうな顔が今で目に浮かびます。

四月は、隊長、副隊長、会計担当を決め年間の活動予定の打合せから始まりました。この季節は、育てているキノコ、整備した竹林からタケノコ、ムジナの雑木林からのタラノメ等を楽しみながらの活動でした。

五月の炭焼きは珍しく大失敗。窯が傷んできたせいか、生焼状態と半分灰になる二回の屈辱を味わいました。

夏の暑い季節は、草刈りに追いまくられます。いくら刈っても次の活動時には元の木阿弥ですが、草木染めとソーメン流しを楽しんで活力を蓄えながら乗り切りました。

毎年好評のツルカゴ教室は、参加申し込みが多かったので、今はキレイになった観察の森入口の

年間活動報告

早い物で今年も既に三月に入ります。今月で平成二十年度の活動が終わりです。今年度の活動を振り返り出来なかつた事、次年度でやりたい事をまとめてみました。

二十年度の活動日は三十八日、雨で中止となったのが三日で、実際に活動した日は三十五日となります。参加延べ人数は三百九十三名で、一般参加者は四十名でした。メンバーの活動参加は平均約十一名となります。但し、三月後半には、三日間の炭焼きを予定していますので、延べ人数は、プラス三十名ほどになると思います。

一般参加者は、十月のツルカゴ教室に二十二名、一月の炭焼き教室に十五名の参加がありました。残りの二名の方は見学者ですが、ツルカゴ・炭焼きとも参加者の楽しそうな顔が今で目に浮かびます。

四月は、隊長、副隊長、会計担当を決め年間の活動予定の打合せから始まりました。この季節は、育てているキノコ、整備した竹林からタケノコ、ムジナの雑木林からのタラノメ等を楽しみながらの活動でした。

五月の炭焼きは珍しく大失敗。窯が傷んできたせいか、生焼状態と半分灰になる二回の屈辱を味わいました。

夏の暑い季節は、草刈りに追いまくられます。いくら刈っても次の活動時には元の木阿弥ですが、草木染めとソーメン流しを楽しんで活力を蓄えながら乗り切りました。

毎年好評のツルカゴ教室は、参加申し込みが多かったので、今はキレイになった観察の森入口の

林でツルの採取をしました。今年度はどこでツルを採取するか悩んでいます。



・順調に炭焼きをこなし、一月には公開炭焼き講座を開催。今年の参加者は皆さん上手で、綺麗な竹炭を持ち帰って貰いました。御礼に頂いた「牛久ゴボウ」にはみんなビックリ。太くって長くって、とっても柔らかでした。

・竹細工教室の参加者から「煤竹・いぶし竹」をうまく作れないかと相談が有りました。実験的にやってみましたが、なかなか難しい作業となりそうです。今年度は、従来の活動を続けながら、技術の記録と煤竹等の新しい事にも挑戦したいと考えています。



里山自然観察隊事業報告

平塚 芳雄

新年度活動への取り組みについて

里山自然観察隊は新年度（平成二十一年度）、

「植物ガイド」と「植物観察会」を二本柱として活動します。

「植物ガイド」は毎年四季折々にテーマを立て一般市民の方の参加を募って行っており、新年度も四月に「スミレ」、六月は「初夏の植物」、九月は「湿地の植物」、十一月には「里山の果実」の観察を会員の渡辺泰さんの解説・指導で行う予定です。身近な植物の観察を通じて草木への親しみが増し郷土への愛着もより深まるのではと思います。

「植物観察会」は三カ年計画で小野川流域の林地（雑木林）と湿地（水田）に生育する植物（草と木）の種と発生頻度を毎年五回調査するもので平成十九年度は上流域（東大和田と猪子）を、平成二十年度は中流域（下根町及び観察の森近く）の雑木林と水田の調査を行いました。最終年度である新年度は下流域（奥原町方面）で調査を行う予定で現在調査候補地探しを行っています。

林地と湿地の観察適地探しは苦労します。湿地として今は水田以外には適地がなく毎年比較的植物種が多いと思われる水田を六箇所程選んで調査しています。雑木林は現地調査でも地形図で調べても少なく、昨年度の雑木林探し、観察適地探しでも、管理放棄され、竹やアズマネザサが侵入、繁茂し、人が立ち入るのを困難にしている山林が多いこと。スギ・ヒノキ林は比較的多いが観察に適したクヌギ・コナラ主体の所謂雑木林が非常に少ないことを実感しました。

牛久市の統計資料によるとここ二十数年間で市内の山林面積の割合は三分の一から五分の一強へ大きく減少しています。



観察候補地

「奥原工業団地近くの水田」

私たちが生活に活用する森林の大気や地下水の保全のファイルター機を考えただけでも解る

ですが、水源としての霞ヶ浦流域山林の現状として考えた時、私達の生活用水の大部分が霞ヶ浦から供給されていることを思うと山林保全が如何に大切か。県としても森林湖沼環境税を平成二十年度から導入し緑化推進の財源を確保、牛久市も都市計画の策定（市民参加のまちづくり）や景観行政団体指定に伴う条例制定を進めている折から、私達としては先ず牛久市内の山林の現状を知ることが大切であると思います。

観察隊の活動としても森林保全の観点から、知る 考える 行動する」の段階を踏んで前進したいのですが現状マンパワー不足が否めません。新年度がスタートするこの時期、同じ志ある多くの方々の観察隊活動への参加を強く望んでおります。



親子農業体験講座
横山 さえ子

親子農業体験講座(じゃがいも)

今年も浴光育芽をします。えー何それ？ですね。単純にいえば、種いもに三〜四週間日光浴をさせること。低い温度と、強い光にあて強い芽ができるようにすると、でんぷんの多い大きなじゃがいもができるのだそうです。問題は、誰がするかです。また、暖地だと効果が少ないともいって、結果はお楽しみでしょう。

植えつけるのは四種です。北あかりは男爵に似ていますが、くぼみが小さく、黄色っぽい色をしています。「ジャガイモシストセンチュウ」に強い品種として開発されました。メイクイーンは細長い形をしています。私はこれが一番大好き。何



ジャガイモ収穫祭 戸塚昌宏

といても皮をむくのが楽だから。アンドス・レッドは、赤い皮が美しいものです。煮ると色は退色してしまます。そして初めて植えるシャドール・クイーン

ン。最新品種、じゃがいもの最高峰、食味最高、もつと「最」がきます。写真で見ると、中身もむらさき、さつまいものむらさきさつまいもよりももつと濃い色です。値段は高い。四月四日からはじまる、待ち遠しいことです。



アヤマメ受託事業報告

佐藤 輝雄

二月から始まった作業は、まだ花苜蓿の活動期に入っていないため、園内の土木工事が中心となつている

一つめは池の土手の補修だが、ザリガニやウシガエルが土手の中に大きな穴を掘って冬眠に入っているため、池の中の水が漏れてしまつたり、土が柔らかくなり土手が崩れてしまつたりする。シーズンまでに補修しておかないと畔の中に入れた水が全部漏れてしまうことになる。

材料は、近くにある竹林の竹を使用することになる。地主に許可をもらって伐採するが、斜面林のため伐採作業も一苦労である。細い竹は一桁位の長さになり、杭として使用するため先を尖らせる。また竹の先の中の空気が抜けないと、竹を杭として打つことができないので穴をあける。いくらか思いきり「かけや」で打ち込んで、中の空気がクッションとなり竹が弾んでしまつ(これがエアークッションかな?)。太い竹は四〜六に割つて杭と杭の間に土留めの壁としてはめ込んでいく。池の中に入つての作業のため胴長を着ての作業となり、外気は寒くても胴長の中は蒸れて、ズ



アヤマメ園スイレンの間引き 2009.03.09

ボンや靴下は濡れてしまつ。冬眠して

もになつていているものもいる。私たちもそと土の中に戻してあげる。また散歩に来た人たちは竹を加工していると、「何をしているのか?」と不思議に思つた。土手のすべてを補修したわけではないが、一応形は整つた。

つぎに、昨年捨てた花苜蓿の株分け後の不要株の処分である。園路の一部に仮置きしたものをどうしたらよいか、皆で検討した結果、アヤマメ園の隅っこに大きな穴を掘って埋めることにした。多分、二〜三年で腐葉土になつてしまつたろう。男の人たちが中心になりスコップで一×一〇メートル・深さ一メートルの穴を掘り、そこに仮置きしたものを一輪車やリヤカーで運びこんだ。土手はきれいになつた。

残りは昨年から引き続き池の中の水連の間引き作業である。観光客の皆さんに少しでも喜んでもらうためにはどの作業も欠かすことはできない。昨年株分けした株もそろそろ新芽が顔を出してきた。



南部の自然を守る会

阿部 幸浩

恒例となった三月の共同作業

三月一日は 毎年恒例となった地域のみなさんとの共同作業の日です。うしく里山の会会員も早朝、地域の公民館、成井公会堂に集合し、地域のみなさんとゴミ拾いを行いました。このよう



南部の自然を守る会共同作業

な活動も二年が経過し、地元の方にも大変温かく迎えて頂いています。

遠山町南部地域の田んぼは農村の自然を楽しむため 散歩など多くの人が訪れる地域です。そのような魅力的な場所ですが、水田や排水路の周辺を歩き、燃えるゴミ十七袋、燃えないゴミ十三袋分のゴミを拾い集めました。その多くは地域外から持ち込まれたものようでした。その後、遊休農地や農道

周辺の草刈りなどを行いました。参加頂いたみなさんご苦労様でした。

「南部の自然を守る会」は、農家さん、成井集落のみなさん、水土里ネット牛久南部、及び本会からなる活動組織です。農地や周辺の自然環境など地域を愛するみんなで守り育てていくことを目的としています。



牛久自然観察の森からお知らせ

斉藤 孝

森のポスター 駅へ！バスへ！

今月は観察の森の広報についてお知らせします。観察の森ではひと月あたり平均八回程、新聞や地域情報紙・テレビに、イベント情報等を紹介していただいています。これに加え、この春からは牛久自然観察の森の行事や自然を紹介する大型ポスターの掲示を牛久駅、ひたち野うしく駅で開始しました。これは、牛久市が管理している市掲示板を活用するものです(担当は政策秘書課)。また、牛久市内で運行されているコミュニティバスかつば号車内にも、順次、ポスター掲示を開始していきます(担当は社会福祉課)。また、三月開催の「こども野原まつり」では、地元食料品店の大型掲示板にもイベント情報を掲示させていただきますました。

今後は、牛久自然観察の森へのアクセスに関係する交通の要所(国道・県道を中心に)に、電柱を利用した方向指示広告を掲示して行く予定です。より多くの方に旬の里山を楽しんでいただけるよう、工夫を重ねて行きたいと思えます。ちなみに、観察の森が登場したテレビの映像や新聞掲載記事は、ネイチャーセンターに記録保存してあります。ご覧になりたい方は、遠慮なくネイチャーセンター受け付けでお申し出下さい。(三月放送の「柴刈り」の映像もございませう)

今月の古木・希少木

No.24

メタセコイヤ

スギ科メタセコイヤ属で、和名アケボノスギと呼ばれています。この属の植物は日本で化石が発見され、絶滅したと考えられていました。千九百四十五年に中国の四川省の山奥で自生樹が発見され、生きている化石として有名になりました。そこで採種された種子が育てられ世界各地で栽培されるようになり、牛久市内でも市役所北側の散策路やひたち野うしく駅前前の街路樹、岡田小学校の校庭・旧家の屋敷で見られます。

雌雄同株。落葉高木の針葉樹で高さ30mほどになります。写真のように葉は対生し、長さ二二三cmの線形で、2列に水平に並び羽根状の短枝をつくり、秋になると紅葉し、短枝ごと落ちます。花は二三月に開き、雄花は長さ約五cmほどの楕円形で、枝先から垂れ下がった長い花序に多数つきます。雌花は緑色、短枝の先に一個ずつつき、秋に成熟して球果となります。球果は直径約一・五cmのやや長い球形で、十〜十一月に熟します。果鱗が開いて種子を出した後、多くは落下します。種子には広い翼があります。



メタセコイヤの葉 07.7.21

生長が早く樹形が美しいことから、公園樹や街路樹としてよく植えられています。(村尾重信)

4月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	3 E17アツツ'900NC	4 親子農業体験講座 9:00畑
5 巨木リサーチ2(特) 9:00NC	6 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 森の畑 第1回 9:00炭屋集合 雑木林応援隊(畑)	8	9 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	10	11 里山自然観察隊 9:00得月院P (会報等原稿切)
12 チーム 街路樹20(受) 7:40JR牛久・見学会 雑木林応援隊 9:00ムジナ	13 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	15 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所	16 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	17 森林総合研究所 一般公開	18 森林総合研究所 一般公開
19 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC E17アツツ'13:00NC	20 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	21 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	22	23 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	24	25 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所 チーム 街路樹20(受) 13:00 E17カード生涯C
26 雑木林応援隊 9:00炭小屋	27 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	28 (休園日) 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	29 (昭和の日) 会報発送 13:00NC	30 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P		

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結末町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

先日、アヤマ園で定例の作業をしていたら、ウグイスの「チャツ、チャツ」という地啼きを聞ききました。まだ、「ホーホケキョ」の囀りはありません。と思つたら今度は空からヒバリの囀りが聞こえてきました。

ヒバリは「雲雀・告天子」と書き、スズメ目・ヒバリ科の小鳥でスズメよりやや大きく、日本各地の畑地、草原などに巣をつくり空中高くのぼって囀り、鳴き声は「一升貸して二斗取る、利取る、利取る」などと表現されています(広辞苑)。この囀りは雄のなわばりを宣言するもので、四月から七月に繁殖し造巣期からはじまるようです。

ヒバリは茨城県の県鳥になっていますが、ちなみに牛久市の鳥は「ウグイス」ですね。

これから一日一日と春つららかな楽しい日になり、会員の皆さんも自然を相手に活動の始まる時期ですね。しかし、花粉症の私は憂鬱です。アヤマ園の作業や観察の森での作業ではマスクを離すことができません。周囲の真黄色に染まった杉の木を涙目で睨んでいます。

四月からは新年度、今まで一年間、坂さんの手伝いとして会報づくりをしてきましたが、内容はいかげでしたか。皆さんに少しでも楽しんでいただければと思います。また、継続して編集作業を行います。より内容を充実させていく所存ですのでご意見等ありましたらお聞かせください。

(佐藤輝雄 記)

広報委員会からのお知らせ

次号3月号の印刷発送は4月29日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしく願いいたします。